



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係



※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら

眼科

40歳過ぎたら緑内障検診をおすすめします

緑内障は我が国における失明原因の常に上位を占め、40歳以上の日本人における有病率は5.0%といわれています。緑内障は視野障害をきたす疾患ですが、初期には視野異常が自覚されないことが多く、自覚した場合はすでにかかなり進行していることが多いです。現在のところ緑内障による視機能障害は回復することはないため早期発見・早期治療が大切です。

緑内障では視神経乳頭の陥凹(へこみ)の拡大という所見をきたします。健康診断の眼底検査で最も多く指摘される異常が乳頭陥凹拡大、すなわち緑内障の疑いです。緑内障は眼圧検査、眼底検査、隅角検査、視野検査等から総合的に診断されます。

健診を契機に緑内障と診断された例を紹介します(右眼について呈示)。

64歳女性、健診で視神経乳頭異常を指摘され受診しました。矯正視力1.5、眼圧15mmHg、眼底検査で乳頭陥凹拡大、網膜神経線維層欠損等を認め(図1)、視野検査では鼻上側の視野異常がみられました(図2、3)。正常眼圧緑内障と診断し点眼治療を開始しました。

健診で異常を指摘された人に限らず、40歳以上の人は緑内障検診をおすすめします。

図1 眼底写真



図2 静的視野

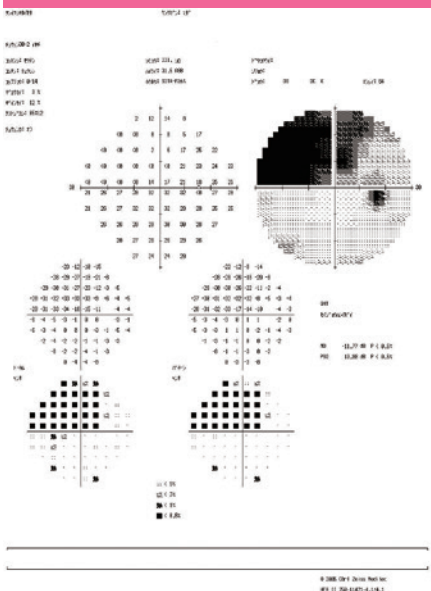
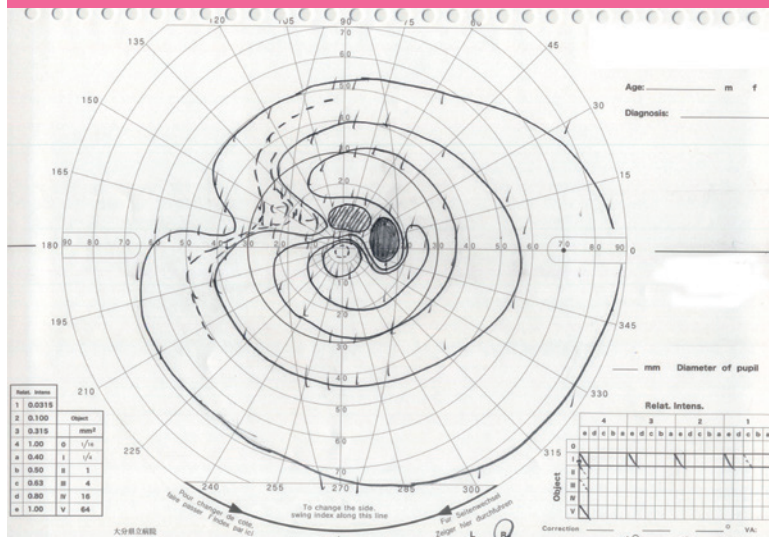


図3 動的視野



(文責 眼科部長 池辺 徹)

最近、競泳の池江璃花子さんが血液疾患の治療で造血幹細胞移植後、水泳に復帰されている映像をメディアで目にされた方もいるのではないのでしょうか。

造血幹細胞移植とは、血液疾患患者さんに対して、自分以外のドナーさんから血液の元となる細胞(骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血)を移植する治療です。

移植後は、感染症や移植片対宿主病(ドナーさんから移植した細胞が、患者さんの細胞を他人とみなして攻撃するために起こる症状:表1)、晩期合併症(時間が経ってから発症するもの:表2)がおこることがあります。これらを防ぐために、継続した検査、診察、生活支援が必要です。

表① 移植片対宿主病の起きやすい部位と症状

部位	症 状
皮膚	湿疹・皮膚が硬くなる・皮膚が黒くなる・脱毛
口腔	口の粘膜・食事や歯磨きで痛み
眼	痛み・充血・ドライアイ
肝臓	血液検査で肝機能値の上昇

表② 晩期合併症の例

甲状腺機能異常、糖尿病、脂質代謝異常、副腎不全、骨粗しょう症、不妊など

そこで、当院では、平成24年10月より造血幹細胞移植後フォローアップ外来を開設しています。専門的な知識を持った医師と造血細胞移植学会の研修を受けた看護師が中心となり、多職種(薬剤師・栄養士など)と連携して支援をしています。

看護師は、個室やプライバシーに配慮した環境で、患者さんからのお話を聴き、必要なケアを生活の中に取り入れられるように患者さん・ご家族と一緒に考えています(表3)。

表③ 相談内容の例(2020年1月~6月)

- 身体症状・・・ドライアイ・皮膚の乾燥・爪のケアなど
- 自宅での生活・・・食事内容・ペットとの接し方など
- 仕事や学校の事・・・職場復帰の時期・注意する事など

患者さんが笑顔でその人らしく生活できるように、今後も医師、看護師その他の医療スタッフとともに支援していきたいと思えます。

気がかりなことなどがありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

(造血細胞移植後フォローアップ外来看護師 中村 真理子)



面談の様子



看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら